

「育ちと学びをつなぐ」  
幼保小連携・接続版③

# 遊 び 学 び 育 つ ひ ろ し ま っ 子 ！

つくって終わりではない！

9月29日(火)の三原市を皮切りに、小学校教員を対象とした「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携担当教員研修会を県内6か所で実施しました。

今年度は、作成済みのスタートカリキュラムの改善を目的とし、幼児教育長期派遣として園・所で1年間研修した5名の小学校の先生方の実践報告(研修、スタートカリキュラム)等を行いました。

第8号のテーマは、「スタートカリキュラムを見直そう！」です。



R2.10.20 東広島市立西条小学校加藤教諭による報告(広島大学)

### 参加者の感想から

- 児童の「楽しい」、「やってみよう」という思いや願いを大切にしながら、自校のカリキュラムを改善していきたい。
- 実践報告を聞き、「安心して自己発揮できる環境」をつくることの大切さを感じた。具体的な取組が分かった。
- コロナ禍だが、工夫しながら園・所と連携していきたい。



## スタートカリキュラムQ&A

安心できる環境のもと、つなげるのは「**資質・能力**」です！

### Q：スタートカリキュラムって何をするの？なぜ特別なカリキュラムが必要なの？

A：幼児期の教育課程と児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく違います。そこで一番困るのは子供たちです。入学当初は、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜ、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえ、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくることが求められています。

具体的には、①生活科を中心とした合科的・関連的な指導や②弾力的な時間割の設定などの指導の工夫や指導計画の作成などを行います。工夫したことはカリキュラムとして可視化して、誰が1年生を担当しても工夫の趣旨を理解できるように、他の先生方と共有することが大切です。

### Q：いつまで行えばいいの？

A：「入学当初」の期間のとらえ方は、学校や子供の実態によって違います。また、連休や長期休業明けにもスタートカリキュラムが効果的だったという声も聞かれます。

### Q：子供の主体性を大切にしたいけれど、どのように子供と関わればいいのか？

A：主体性とは、「自分で選び、決めることができること」と言えます。子供は本来、主体性を既にもっています。その主体性が一層発揮されるよう、教師は、教材や子供が学べるような出合いを工夫することが大切です。

子供が主役のカリキュラムなんだね！



## メッセージ ～子供たちと向き合う先生方へ～ 安田女子大学 朝倉 淳 教授

コロナ禍における生活も半年以上となりました。その間、園や学校ではいろいろな制約や新しい様式が生まれました。それは、子供たちにどのように示されたのでしょうか。子供たちはどのように受け止め、どう過ごしたのでしょうか。そこにはどのような多様性があったのでしょうか。

それぞれの職場で、懸命に対応されてきたことと思います。連携も困難でした。今、例年とは少し異なる子供たちの姿があります。小学校の先生が想像しにくい園児の姿、園の先生が想像しにくい小学生の姿です。

本年度の四月に向けて作成されたスタートカリキュラムは、コロナ禍を前提にしています。一方、来年度はコロナ禍で特別な一年を過ごした子供たちが入学してきます。だからこそ、「来年度」のためのスタートカリキュラムとそのためとの連携が必要なのです。

新入生の四月がよりよいものであっても、今しかありません。子供も大人も「今しかありません。大切な時間を過ごしているのです。」

小学校一年生として  
過ごす限られた時間



朝倉先生には、上記の「スタートカリキュラム Q&A」に御助言をいただきました。

# つくて終わりではない!～スタートカリキュラム改善ポイント～

見直す時に活用を!

子供を中心に考えよう!

## チェックポイント

- 子供たちのこれまでの育ちを把握したカリキュラムとなっている。
- 主体的に自己を発揮している姿(1年生の終わりに期待する姿)を明確にしている。
- 児童の意識に沿った、生活科を中心とした合科的・関連的な指導の工夫をしている。
- 実態に応じて弾力的な時間割の設定を行う工夫をしている。
- 安心して自己を発揮できるような環境のもと、幼児期に生まれた資質・能力を更に育成できるカリキュラムとなっている。
- カリキュラム編成・実施・改善に向けて、園・所等と連携をしながら作成している。
- 学校全体で取り組むことができるよう体制が整えられている。

今回はここについて詳しく見ます!

### 1年生の終わりに期待する姿

★これまでの力を存分に発揮し、自ら学ぶ力を伸ばしていくことができる姿になっていますか?

**期待する児童の姿**

- 自信をもち、主体的に学習している。
- 他者と関わり合いながら一緒に活動したり学習したりしている。
- 課題に対し、あきらめずにやり切ろうとしている。

1年生の終わりの時期として、また趣旨に沿った姿として設定できているでしょうか。

研修会では、「目標が高すぎる。」「『～できる』と書くと、できる、できないで子供を見てしまう。」等の気付きが聞かれました。

府中市立旭小学校のスタートカリキュラム計画(抜粋)

### 生活科を中心とした合科的・関連的な指導

★子供の願いや思いに沿った学習展開となっていますか?

子供の思いや願いに沿った授業を展開することは、主体的な活動の実現につながります。挨拶やルールなども、思いや願いを実現する過程において身に付けていくことで効果的に指導できます。



☆「がっこうたんけんはじまるよ」の単元の中で、生活科を中心として、道徳や国語、音楽などを組み合わせています。

4/24金	4/25土
にこにこタイム(自由遊び)	にこにこタイム(自由遊び)
生音国	生音国
友達と遊びを楽しむ。(校歌、友達とゲーム、絵本)	友達と遊びを楽しむ。(学校探検から、ゲーム、言葉の絵本)
道道道	国国音
「がっこうたんけんはじまるよ」	「がっこうたんけんはじまるよ」

廿日市立廿日市小学校の週計画(一部省略)  
※内容については省略しています。

### 弾力的な時間割の設定

★発達の特長やこの時期の学びの特徴を踏まえた活動時間の工夫をしていますか?

何のため?～キーワードで見直そう～

- 「楽しい気持ちで1日をスタートする」
  - 「安心して学校生活を楽しむ」
  - 「学習意欲が続くようにする」
  - 「思いや願いを実現する」
  - 「発達の特性に配慮する」
  - 「明日への期待感を高める」
- そのために、短い時間(左の週の計画では15分間)で区切ったり、朝の時間から1時間目までを連続して扱ったりという工夫が考えられます。

### 北部教育事務所主催初任者研修

10月27・28日、北部教育事務所の第11回初任者研修において、「幼保小連携・接続」に係る講義・演習を、幼児教育アドバイザーと当センター担当者で行いました。幼児教育から学ぶこととして、「子供理解と教師の支援」、「環境構成の工夫」を取り上げました。

「子供の視線を意識した掲示ができていないか、見直したい。」「子供の行動の意味を考えるようにしたい。」等の声が聞かれました。

初任の先生方の学ぶ姿勢が伝わりました。



### 尾道市幼保小連携協議会

11月2日、尾道市で「育ちと学びをつなぐ」幼保小連携教育の推進事業の指定地区における連携協議会が開催されました。

小学校区で行った協議では、小学校で課題だと考えていることを出し、それらへの対応について、園・所の先生方と話し合いました。ある小学校では、「シューズを履かない、椅子に座らず立ち歩く」という課題が出されました。それに対して、「環境が変わるとできていたことができなくなることがあるね。『前はできていたけど、今はできていないことがあるね。どう思う?』と子供に問いかけてみては?」等の話が園・所の先生から出されました。

具体的な場面について、活発な協議が行われました。



【発行元及び連絡先】広島県乳幼児教育支援センター  
〒730-8514 広島市中区基町9-42 広島県教育委員会事務局(東館6階)  
TEL (082)513-4978 FAX (082)212-3331  
広島県乳幼児教育支援センターホームページ <https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-index.html>

